

出前講座報告書

実施日時	2025年8月29日 10:30~12:00	主催者名	弘前年金者組合女性支部
講師名	伊勢充	会場名	駅前地区都市改造記念会館
テーマ	介護保険のあれこれ～現状と課題		
参加人数	19人	報告者	伊勢充

【講座内容】

○ 介護保険制度の現状

・制度の理念と変遷

2000年スタート「介護の社会化」「自立支援」「利用者本位」が基本理念。近年は報酬改定や制度変更が頻繁に行われている。

・2024年の介護報酬改定

全体で+1.59%の増加だが、訪問介護のみ報酬が減少(約2.3%の減収)。訪問介護の利益率が高いとされるが、実態は経費や移動時間の負担が大きい。

・訪問介護の実態と課題

利用者宅への訪問には多くの時間とコストがかかる。報酬体系が複雑で、生活援助が軽視されがち。事業所の廃業・倒産が急増。特に小規模事業者が厳しい状況。

・人材不足と高齢化

介護職員の高齢化が進み、若年層の担い手が不足。ケアマネジャーや介護福祉士の資格取得者も減少傾向。

○ 進行する介護危機

・人口動態と将来予測

2025年には団塊世代が75歳以上に。2040年には介護人材が全国で57万人不足する見込み。青森県は高齢化率の伸びが全国トップクラス。

・制度維持の課題

社会保障費の増加に伴い、保険料や利用者負担の見直しが進む。ICT活用や報酬体系の見直しなど、生産性向上が求められている。

○ 打開の道と地域の取り組み

・自治体の支援例

新潟県村上市:訪問介護報酬引き下げ分を市が独自補助。世田谷区:訪問介護事業所に88万円の支援金を給付。弘前市:要望書提出により要介護認定業務委託料の値上げ実現。

・地域サービスの紹介

寝具丸洗いサービス、認知症サポートQRコード、補聴器購入費助成など。

・長野県泰阜村在宅福祉事業の理念や特色の紹介。

・制度の改善

介護をする人・される人、地域全体で支え合う仕組みづくり、現場の声と地域の実情を行政に届けることが必要。

<気づいたことや今後の教訓など>

訪問介護の話題を中心に講演させていただいた。参加者の方はどなたも熱心に聞いてくださっている印象を受け、講演中も頷いたり、「ああ〜」などリアクションもあってこちらとしてもやりやすかった。講演後は今後の介護保険改定や地域から介護資源が無くなっていくことに関する質問や意見が聞かれていた。今回長野県泰阜村の紹介をして、いいリアクションがあった。見習いたい自治体として、今後も地域住民の方に有用な情報提供や、一緒に活動をしていく運動体の一翼として協力してもらえよう講座を続けていきたいと思う。

